



『遊び』とは？

かつて、「遊びとは何か」ということを考えていたときに読んだロジェ・カイヨワ (1958) の「遊びと人間」を久しぶりに取り出してみた。ニホンザルの子どもの社会的発達に関する研究をしていたとき、目の前で繰り広げられる子どもたちの追いかけっこや組んず解れつの腕白遊びは、彼らにとってどんな意味や役割を持っているのだろうか？ それを明らかにしてみたいと思い、「遊び」とはどんな定義がなされているのか探していた。サルの子どもたちがいかに楽しそうに、おもしろ



そうに遊んでいる。その行動にはきっと何か意味や役割があるはずだ。動物の子どもはよく遊ぶ。日常の生活を秩序づけている社会の枠組みから解き放されて、対等な場を作ることで遊びを成立させている。強い個体は相手に対して弱い部分である腹を見せて仰向けになり、遊びに誘いこむ。対等の場を作り出し、ルールに従うことで遊びを成り立たせるのだ。このような子ども時代の仲間遊びの経験は、彼らが大人になってゆく上で重要な役割を果たしている。動物の社会ではもっぱら遊んでいるのは子どもたちだが、人間の社会では大人も遊びに熱中する。

ヨハン・ホイジンガ (1938) は、人間活動の中から長い間無視されていた遊びをとりあげ、遊びの文化的創造力に関する著作を発表した。かつて人間は「ホモ・フアーベル」(耕す人)より「ホモ・ルーデンス」(遊ぶ人)の方が先にあったのだという。遊びは自由であると同時に発明であり、気ままであると同時に規律がある。文化のあらゆる重要な表現は遊びの要素を有し、文化は遊びが創造し、遊びが維持している探求の精神、ルールの尊重によって支配されている。法律の規則、芝居の演出や典礼の規則、戦術の規則、哲学論争の規則など、そのまま遊びの規則でもあり、規則は約束事として尊重されなければならない、その細かい網の目は、まさに文明の基礎になっているというのである。

このホイジンガのあまりにも広い、しかし、重要な考えに対して、遊び自体の説明や分類を通して遊びを理論的に追求し、その定義をしたのがカイヨワだ。

それまでの遊びの研究といえはおもちゃの歴史でしかなく、単純で無意味な子どもの気晴らしであり、そこに文化的な価値を認めることはなかった。大人は、もっとおもしろい玩具を見つけ出

した時、興味を失った玩具は子どもに譲り渡すという、遊びを愉快で意味のない行動に過ぎないとしていたのだ。

文化の発展を可能にする豊かな創造性を持った約束事の根本にあるものが遊びの精神であり、自発的に、自分の意志で、自分の快楽のために遊びに熱中するのである。遊びは器用、洗練、発明を促進すると同時に、遊びのルールは敵に対する誠実を教え、試合が終われば敵対関係も終わるという競争の手本を示す。

遊びは労働と対比して考えられるとき、何も生み出さない無駄なものとして片付けられがちだが、文化の様々な場面に遊びが織り込まれており、その遊びの根底にある「おもしろさ」、「楽しさ」は誰もが認めるところであろう。その「おもしろさ」、「楽しさ」とは何だろうか。それを、分析的



的研究の結果として導き出すことは簡単ではない。つまり「おもしろさ」を学問として位置づけることは容易ではないということだ。

大人が、かくも熱心に遊ぶのは人間の特徴である。必ずしも遊びだけが、おもしろくて楽しいということではないが、おもしろい、楽しいと感じることが、学習効果を高めたり、病気の人の免疫力を高める効果があるともいわれている。強制されるのではなく、自由で任意の活動であるところとは、遊び全体に通じているのだろう。

今、私たちの身の回りには、いろいろな楽しむための媒体がある。大いにおもしろがり、楽しむことができるのは、この上もない喜びであるが、ふと不安になることがある。それは、様々な道具に振り回される受動的な楽しみの追求に陥っていて、遊び本来の、「自由で任意で、自発的な活動」というところからずれてしまっていないだろうか。

■参考図書:『遊びと人間』 ロジェ・カイヨワ著
(清水幾太郎・霧生和夫訳) 岩波書店

目次

■巻頭言	『遊び』とは？	1
■本の紹介	「デジタル・眼」上達講座	2
	たった3秒のパソコン術	3
	ひとりっ子の取扱説明書	3
■演習紹介	PR学科 東京メディア見学	4
	健康栄養学科 橋本ゼミ	5
■図書情報センターから		6



本の紹介

『カラー版 基本がわかる! 写真がうまくなる! 「デジタル一眼」 上達講座』

田中希美男(たなか きみお) 著

アスキー新書 ISBN978-4-04-867288-7 定価 900 円(税込) (2008.8)

デジタルコンテンツやレポートなどで使用する写真の作成に、デジタルカメラ(デジカメ)を使うことも多いと思います。このとき、是非知っておきたい撮影のための知識とテクニックを解説した入門書が出版されたので紹介します。著者は、写真家として、更には、写真界のウェブやブログでも有名な田中希美男氏です。

タイトルのデジタル一眼とは、一眼レフタイプのデジカメのことで、コンパクトデジカメに比べると、大きく重いのですが、一般にレンズ交換が可能で、画像は遥かに優れたものが得られます。高画質の写真を作成する場合などに使いたいデジカメです。

デジタル一眼のカメラとしての基本性能は、今までのフィルム式のAF(オートフォーカス)一眼レフカメラとあまり変わりません。しかし、カラーバランス設定機能のお陰でフィルターワークがほとんど不要になったり、撮影途中のISO感度変更が容易になるなど、フィルム撮影では困難だった画期的な撮影スタイルが、簡単な操作で可能となりました。

また最近、HD(ハイビジョン)のビデオ撮影の可能なデジタル一眼が相次いで発表されました。これらは、コンパクトデジカメには無い高性能で豊富な交換レンズ群を使うことができたり、暗い場所での撮影ではビデオカメラよりも低ノイズでクリアな映像を得ることができるなど、これまで以上に多彩な表現が可能になることから、大変注目されています(詳しくは科目「映像と情報」、「映像学」、「専門演習」で解説していますから、興味があれば是非聴講しに来て下さい)。しかし、どれ程優れた機材も、きちんと使わなければ優れた映像・画像を

残すことはできません。また、少々不備な映像・画像でも処理ソフトを使って、後から修正すれば事足りると思われがちですが、本書でも述べられている通り、実はそうではありません。元の映像・画像に補正を加えるのですから、一時的に見栄えを良くすることにはなるかも知れませんが、画質が良くなることはないのです。映像・画像制作において先ず大切なことは、元となる映像・画像をきちんと撮ることなのです。この本では、フィルムとデジタル両カメラで共通する撮影術の基本に加え、デジタル一眼固有の使い方が、初心者向けに紹介されています。また、デジタル一眼に数多く備わる機能の中で、何が必要で何が不要なのか、そして、必要な機能をどのように設定し活用すれば良いのか、などを大変明瞭に分かり易く解説しています。例えば、AWB(オートホワイトバランス)、ISO感度や露出補正など。更に、風景・肖像・商品・食べ物などの撮り方や機材の取り扱いなどが、作例写真と共に大変分かり易くまとめられており、直ぐにでも応用ができると思います。フィルム撮影の時代からこれまでに多くの入門書が出版されてき

ましたが、この本のようにデジタルの特徴やアドバンテージを活かした使い方や知識を丁寧、かつ、系統的に解説した入門書は、それほど多く有りません。デジタル一眼のみならず、デジカメを手にしたら是非読みたい本です。また、映像・画像作成をする人は勿論、動画撮影の基本とも共通点が大変多いので、そういった人達にも是非お勧めします

【本の紹介者】

大矢信吾: 情報メディア学科 准教授



『たった3秒のパソコン術』

たった3秒のパソコン術—読むだけで別人！さらに「仕事が速い自分」「頭の回転が速い自分」
中山真敬(なかやま まさたか) 著
三笠書房 ISBN978-483977100 定価 630 円(税込) (2008.4)

この本は、偶然本屋さんに立ち寄ったときに目にとまった本です。

人が仕事をしている時に、「どうして彼／彼女はそんなに仕事がはやいのか？」と思ったことはないでしょうか？ それは、パソコンを上手く使いこなす力だけではなくたのです。通常マウスを使って操作をすると、一つの作業で3秒程度かかります。しかし、同じ作業をボタンひとつで行うことができれば、作業時間も削減できるわけです。このようにパソコンには楽に作業できるようにショートカットキーというボタン操作があります。つまり、仕事ができる人ほど「マウスをあまり使わず」、仕事ができない人ほど「使わないボタンが多い」のです。

そうです、この本にはパソコンを使う上で便利なショートカットキーがたくさん載っています。たとえば、Word や Excel で文章を作ったり表を作ったりしているときに、ボタンを押すだけでその作業が簡単にできるショートカットキーや、ホームページを見ている時に、スクロールや画面を保存するための方法などです。

ショートカットキーは、初めてパソコンを買ったときの説明書には、ほとんど載っていないのでかなりの人が知らないと思います。私も、最近になってようやく知り始めたぐらいです。しかし、知っている人からすれば「え？知らなかったの？」などと言われてしまうぐらいに一度知ってしまえば簡単で便利な道具になります。この本を読めば自分のやりたい操作を簡単にする方法などが見つかるかもしれません。

書店で見かけましたら、是非一度開いてみてはいかがでしょうか？

【本の紹介者】 斎藤 英喜：情報メディア学科 3年



『ひとりっ子の取扱説明書』

Dalle Dalle 著
廣済堂出版 ISBN978-4331513309 定価 1050 円(税込) (2008.7)



今年大ヒットとなった「〇型 自分の説明書」の血液型性格シリーズと似ている構成の「ひとりっ子」版です。

内容としては心理テストのようなチェック方式で、「ひとりっ子」の特徴を表す項目に答えていきます。項目(文章)が連鎖のように繋がっており、シュールな一言や挿絵で「そうそう、確かに...」と感心するくらいぴったりに表現した項目が多く、楽しんで読むことができるように工夫されています。

この本は、真面目な性格分析のような感覚じゃなくて、本書記載の通り「そうかも」くらいのかい気持で、いかにノリで楽しめるかが大事だと思います。「ひとりっ子」への独断や偏見も、巻頭と巻末のあとがきでうまく中和されており、よくぞここまで「ひとりっ子」というコトを大っぴらにしたなあと思う、見事な一冊だと思います。

ってこれだけ褒めるのは、何を隠そう、私もひとりっ子(笑)。怖いくらいに当たっていたり、もちろん当てはまらない項目もあったけど、この本が持つ独特でシュールなノリで「ひとりっ子」と言うレッテルが、

より愛着を持てるような気分になれます。「だって、そうなんだもん！」と。

「ひとりっ子」に並んで比較される？「末っ子」版も出版されているので、併せてお薦めです。

【本の紹介者】 白石 貴裕：情報メディア学科 3年



授業紹介

PR 学科 東京メディア見学

PR 学科 1 年次必修科目である PR 学入門の授業にて、5 月 15 日(木)～5 月 16 日(金)の日程で、東京都内の PR に関係する企業やマスコミに係る企業を訪問し見学する学外演習を行いました。参加学生 8 名、引率教員 4 名による、1 泊 2 日の見学です。

■一日目訪問先： 【午前】日本テレビ 【午後】電通PR 中央公論新社

■二日目訪問先： 【午前】マッキンゼーエリクソン 【午後】読売新聞社

各企業の担当者との座談会も設けられており、見学先の担当者に、たくさんの質問をする機会がありました。

見学内容をメモしたり、説明を録音するなど、積極的に PR・マスコミ業界のことを学ぼうとする学生たちの姿が印象的でした。

この東京ツアーを引率された 江草普二先生(PR 学科 准教授)によるコメントを紹介します。

4 月に赴任して初めての出張先が東京。難しい交渉に臨むとか退屈な会議に出席するとか、そういうのであれば迷わず仮病を装うのが健康に生きる秘訣だが、マスコミ数社を訪問して、その心臓部を見学する、という聴くからに楽しそうな内容。訪問先には、かつて勤務していた広告代理店も含まれていて、ついでに旧交を温めることもできる。否も応もない。

PR 学科は今春、第一期生 8 名を迎えた。東京メディア・ツアーは、これから PR を学ぶ彼らが、PR の現場を肌で実感し、自分たちの将来像をイメージできるよう、「PR 入門」の学外授業として企画された。マスコミ出身の教員のコネが存分に発揮された訪問先は、「日本テレビ」「読売新聞」「電通 PR」「中央公論新社」「マッキンゼーエリクソン」の 5 社。錚々たるラインナップである。

8 名の学生に対して教員 4 名。教員の責務は引率だが、ボクはいつしか引率される側に立っていた。そしてウン十年前のことを思い出していた。先輩に引き連れられて、同期の新卒達と一緒に、こうしてマスコミ各社を回った。人いされでむんむんする編集部やセットが解体されたスタジオを廻りながら、憧れの業界に足を踏み入れた感激に胸を高鳴らせていた。初恋が成就した時のような、さすがに今はそんな気持ちにはなれないが、それでも昔の恋人に久しぶりに会う、大人のワクワク感は楽しめた。

思えばマスコミという言葉は媚薬のようなものだ。何かとてつもなく面白い世界のように感じる。クリエイティブだし、ジャーナリストチックだし、時代の最先端というイメージがある。タレントがいて、アーティストがいて、知識人がいる。華やか、艶やか、煌びやか。訪問した 5 社ともに、受付から、案内役、プレゼンター、担当重役、そしてたまたま出くわした社員に至るまで、その雰囲気はむんむん、なのである。

しかし…、という接続詞で受けるのが、分別ある大人としてふさわしい文脈ということになるのだろう。それはあまりに表層的である、と。だが、そういうものに憧れるのは人間の本能といっていい。こういう世界がなければ世の中詰らない。特権階級だと勘違いしているそれこそ軽佻浮薄な輩にはさっさとお引き取り頂くとして、マスコミ総体としては憧れの対象であり続けて欲しいと願っている。それが、マスコミを学ぶ者のモチベーションにもなる。



PR 学科の 8 人は、将来何らかの形でマスコミと関わっていくことになるのだろう。実情として様々な問題や矛盾を抱える業界だが、憧れるだけの価値はまだ十分にある。幸いなことに時間だってまだたっぷりある。憧れのものを手に入れる方法はボク達から聞き出すまでもないことだ。

東京メディアツアーは来年も続くことになっている。PR 学科二期生が激増して欲しいことはその通りなのだが、引率者としてはかなり骨折りだし、受け入れる会社の方も結構大変だな、と、今から気をもんでいる。いっそ大型バスをチャーターして、ツアーコンでもつけようか。





演習紹介

■健康栄養学科 卒業演習 橋本ゼミ

橋本ゼミは臨床栄養研究室(北館1階)で毎日活動しています。ゼミ指導教員は臨床栄養学を担当しており、病院における栄養管理に関する卒業演習テーマをゼミ学生に取り組みさせています。主なゼミ活動は、集団栄養指導における栄養指導の実践と、管理栄養士国家試験受験対策です。今回は集団栄養指導における栄養指導の実践について紹介します。

集団栄養指導における栄養指導の実践

このテーマは実際に病気の治療をされている患者様の参加される病院の集団栄養指導を参画するというもので、今年度は糖尿病教室です。糖尿病教室のテーマを立案し、テーマに沿った治療食を提供して、食事療法のサポートを行うというものです。この卒業演習は地元稲沢市の総合病院である愛知厚生連尾西病院と協働して、年4回開催される糖尿病バイキング教室で実践しています。3月に行った教室は「中華風を学ぶ」、6月は「麺料理を学ぶ」、9月は「甘味料について学ぶ」でした。12月のテーマは9月の教室で行うアンケート調査で決まります。ゼミ学生はアンケートから決定したテーマにおける食事療法のポイントと、これに従った糖尿病献立を考えます。献立は事前に大学の実習室で試作し、栄養科の管理栄養士の先生方と打ち合わせを繰り返し、幾度も修正を行います。教室当日は早朝6時半に病院入りし、治療食の調理を栄養科と調理師の先生方と一緒に調理します。そして糖尿病教室本番ではゼミ学生が作成したリーフレットを見ながら、考えた糖尿病献立を患者様に食べていただきます。この時に実際に患者様と思う存分お話をし、患者様の理解度やこれからの食事療養に対する意気込みなどのアンケートを行い、統計を取り、集団栄養指導を行う上での注意点や患者様の行動変容レベルの変化について、卒業演習のレポートとしてまとめます。



病院と連携した卒業演習を通じて

患者様を相手の教室の企画と対話は大変難しいものです。しかし、このような責任ある集団栄養指導を経験することは、管理栄養士となるために絶対に必要です。病院で毎日ゼミ活動を行うこと、教育の場を一部病院とすること、さらには地元密着型教育を行うことが、将来的に管理栄養士養成において要求されるであろうと予見しています。「卒業研究」ではなく「卒業演習」は、管理栄養士としての予行演習と、管理栄養士として成長するために必要なものを発見し、必要なものを準備するための大切な講義です。このゼミ活動を通じて、臨床栄養に対する高い向上心を身につけた管理栄養士となって羽ばたいてくれることを心から願っています。

■写真：病院での集団栄養指導（右上）ゼミ担当橋本賢助教、（右中）筒井理栄、（左）永井あす香、（右下）大浦菜見子

■臨床栄養ゼミホームページ

<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/~clinic/main.html>





プリント工房へのソフトウェア追加のお知らせ

プリント工房に Adobe Creative Suite 3 Master Collection が導入されましたのでお知らせします。

■対象コンピュータ

Adobe Creative Suite 3 Master Collection(以下、Master Collection)は、4月に導入された高速プリンタ印刷用パソコンと MacPro に導入されました。特に、MacPro には MacOS 上だけでなく、Boot Camp 上にセットアップされた Windows Vista にも Master Collection が導入されました。また、大判プリンタの印刷も MacPro より印刷指示を行う仕様とし、ハイパフォーマンスな MacPro を主軸とした快適な環境となりました。

MasterCollection の主な機能

- Adobe InDesign CS3
- Adobe Photoshop CS3 Extended
- Adobe Illustrator CS3
- Adobe Acrobat 9 Pro
- Adobe Flash CS3 Professional
- Adobe Dreamweaver CS3
- Adobe Fireworks CS3
- Adobe Contribute CS3
- Adobe After Effects CS3 Professional
- Adobe Premiere Pro CS3
- Adobe Soundbooth CS3
- Adobe Encore CS3

* プリント工房の利用については図書館カウンターに申し出てください。これまで以上に高品質でスピーディな印刷が可能なプリント工房を活用し、技術に磨きをかけましょう。



おわびと記事の訂正

図書だより 2008 年 4 月第 21 号 情報文化学科卒業研究紹介 (p.6)において吉田友敬准教授のゼミ生、寛 蒼史君の卒業研究紹介が誤っておりました。ここにおわびして訂正いたします。

【誤】

■研究テーマ：（オリジナル作品による）音楽アルバムの制作 寛 蒼史

音楽と情感という、音楽心理学上の大変難しいテーマに取り組み、モーツァルトの楽曲の研究を行いました。哲学的領域に及ぶ関連文献を調べ、ほとんど独力で、モーツァルトのピアノ曲について分析しました。変奏形式中の各変奏に対し、その曲の持つ情感について詳細な分析を加え、慎重かつ大胆に仮説を提案し結論としています。難解なテーマに対してよく取り組み卒業研究にまとめ上げたと思います。評価に値する研究と考えます。(指導教員: 吉田友敬准教授より)

【正】

■研究テーマ：（オリジナル作品による）音楽アルバムの制作 寛 蒼史

寛君は、コンピュータ音楽の制作に情熱的に取り組み、2年間で、数10曲以上の作品を制作しました。また、作曲のみならず、ミキシングやマスタリングなどの専門的技術を身につけ、後輩に指導するなど、ゼミや授業に対する貢献の大きい学生です。さらに、作品発表コンサートでは、実行委員長をつとめるなど、多大な活躍をし、本ゼミに対して大きな希望を与えましたので、ここに推薦いたします。(指導教員: 吉田友敬准教授より)



平成20年10月

編集：名古屋文理大学図書情報委員会

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365

TEL：0587（23）2400 FAX：0587（21）2844

e-mail：toshokan@nagoya-bunri.a

